

常陸多賀駅周辺地区まちづくりグランドデザイン

令和6年5月

日 立 市

目次

	ページ
1 策定の経緯等	1
(1) 策定の背景	
(2) 策定の目的	
(3) 策定の経過	
2 駅前空間に望まれるもの	3
(1) 駅利用者アンケート	
(2) 地域との意見交換	
(3) 常陸多賀駅周辺地区グランドデザイン検討ワークショップ	
3 基本方針	7
(1) 駅前空間の位置付け	
(2) 駅前空間の基本方針 ～駅前空間の将来像（ビジョン）及び機能導入方針等	
(3) 目指す将来像（イメージ図）	
4 今後の進め方	11

1 策定の経緯等

(1) 策定の背景

JR常磐線の「常陸多賀駅」は、市内で最も多くの居住人口を有する多賀地区の最寄り駅であり、本市が多極ネットワーク型コンパクトシティの都市構造を目指す中で、日立駅と並ぶ重要な都市の拠点として、交通結節機能の更なる充実や、にぎわいの創出、交流の拡大などの役割が期待されています。

そのため、本市では、令和2年3月に「常陸多賀駅周辺地区整備計画」を策定し、常陸多賀駅周辺地区の交通結節機能の強化や市街地の再生など、都市拠点としての機能向上を図るべく、現在「常陸多賀駅周辺地区整備事業」（以下「事業」と言います。）を重点的に推進しています。

事業における短期的な取組として、東西自由通路と駅舎の一体的な改築や、駅東側での新しい広場、広場に至る道路などを整備する計画としており、施設整備などを契機とした地区の「新たなにぎわいの創出」に向けては、これらハード面の取組とあわせて、ソフト面でもまちづくりを推進していくことが重要となります。

本市のまちづくりにおいては、「コミュニティ」が中心的な役割を担っているという強み、特長があり、地域住民の連帯のもとで、長年に渡って公益的な活動が行われています。

また、近年では、まちづくりの担い手として、市民団体や事業者、NPOなどが主体となった活動も活発に行われており、「サービスを提供する“官”」と「サービスを受ける“民”」という関係性から、社会全体で官と民が連携してまちづくりを進める形へと変化しています。

このような中で、整備計画では、行政と地域の多様な主体（コミュニティや商店会、NPO、事業者、学生、有識者など）が相互に連携し、地区の「暮らし」と「にぎわい」が持続可能なものとなるよう、まちづくりを推進していくという目標を掲げています。

目標の実現に向け、事業の初期段階から、にぎわい創出の原動力となる「地域に根差したまちづくり人材」の発掘、育成支援などに継続的に取り組んでいるところですが、今後、常陸多賀のまちづくりに携わる人々が相互の連携を深めながら、立場や役割、まちへの思いなどを背景とした個々の活動を発展させていくためには、共通目標となるまちの将来像を定め、まちづくりの方向性を共有していく必要があります。



(2) 策定の目的

今回策定したランドデザインは、地区の新たなにぎわいの創出や交流の拡大に向け、地域と行政が一体となってまちづくりを推進していく中で、携わる全ての人々の共通目標となる、目指すべき「まちの将来像」の具体的なイメージを描いたものです。

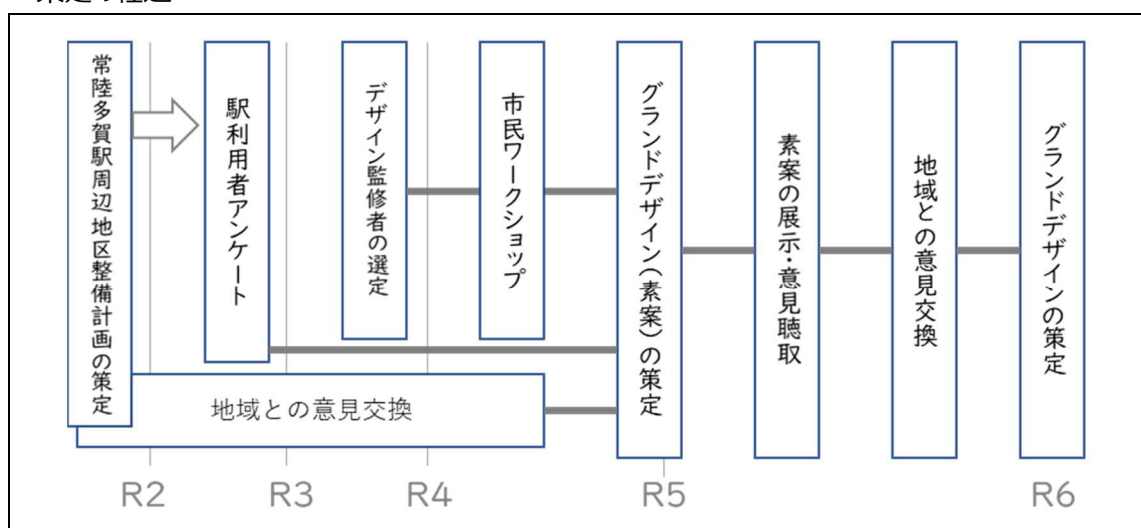
その中では、駅前空間が、まちに住まう人々、訪れる人々を「惹きつける」、「わくわくできる」魅力的な空間となるよう、事業地の活用方針や機能の導入方針などを定めています。

事業では、この方針のもとで、着実に施設整備などを進めるとともに、ランドデザインの実現に向けて、将来像を広く共有し、地域の幅広い世代、多様な人材の参画を得ながら、常陸多賀駅周辺地区の持続可能なまちづくりを推進します。

(3) 策定の経過

ランドデザインの策定に当たっては、事業の計画段階から継続している地域との意見交換や、駅利用者アンケート、ワークショップなどを通じて、幅広い世代からの意見、まちへの思いなどを伺いながら、作業を進めました。

■ 策定の経過



2 駅前空間に望まれるもの

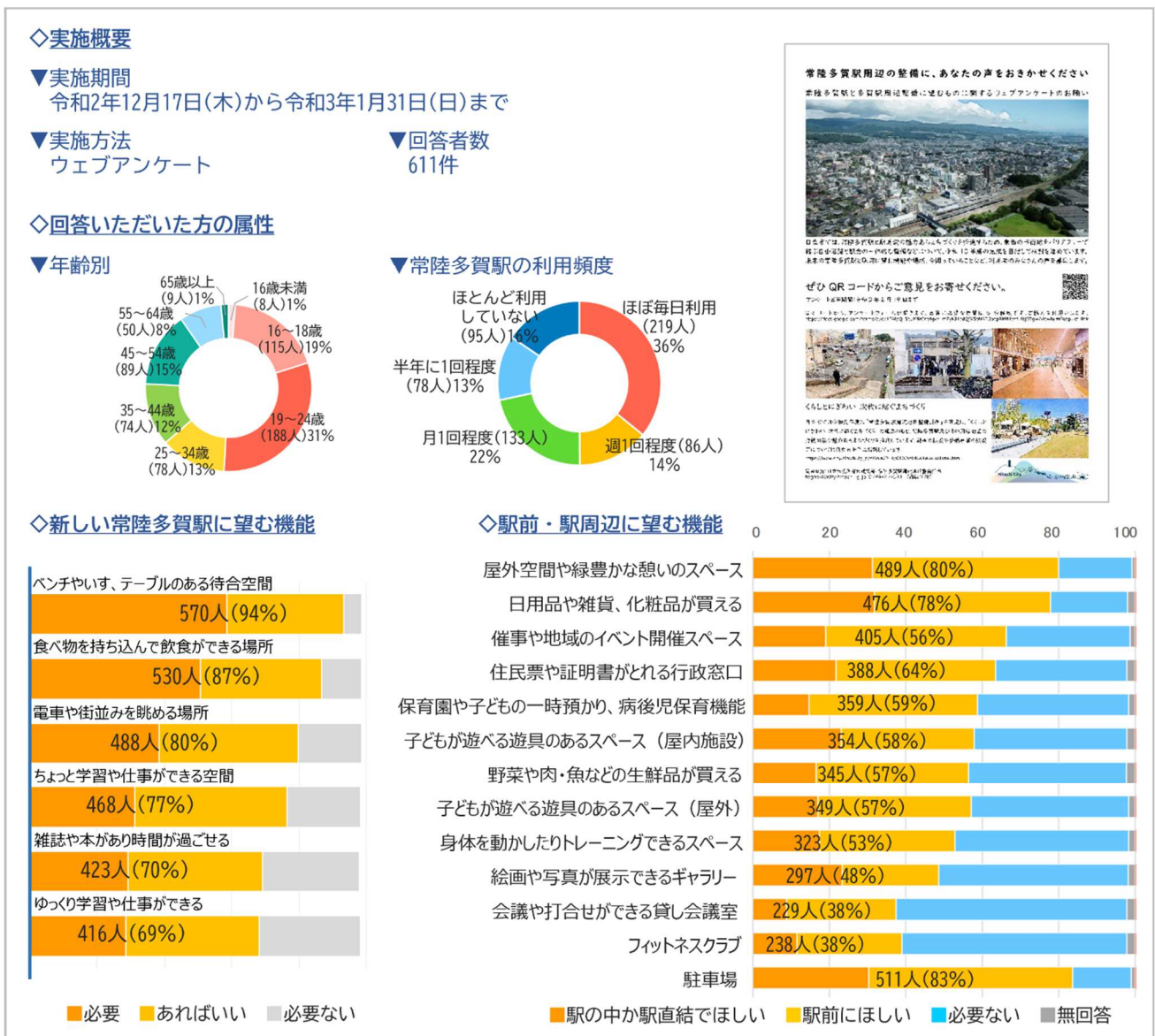
策定作業を通じて、地域の皆様から伺った意見等は以下のとおりです。

(1) 駅利用者アンケート

通勤や通学など、駅利用者の駅及び駅前空間へのニーズを把握するため、令和3年1月にWebアンケートを実施しました。(回答者数 611人)

新しい駅に必要な空間として、「ベンチやいす、テーブルのある待合空間」や「飲食できる場所」などを望む声が数多く見られました。

また、駅前・駅周辺空間における将来の土地利用では、幅広い世代から「屋外空間や緑豊かな憩いのスペース」や「お店」（「日用品や雑貨、化粧品が買える」等）といった機能のほか、「駐車場」の利用に、高いニーズがあることがわかりました。



(2) 地域との意見交換

事業の推進に当たっては、計画段階（令和元年度）から、コミュニティや商店会、事業者など、地域の皆様との意見交換を重ねながら、事業の進捗状況などの共有を図るとともに、まちづくりや施設の整備方針、駅前に望まれる機能などについて、多数のご意見を伺ってきました。

その中でも、特に駅周辺には、待合機能や商業機能、交通結節機能といった地区の拠点としての機能向上を求めるとご意見を多くいただいています。

■まちづくり活動の推進■

- ハードの整備とあわせてソフト事業の展開が重要
- チャレンジしている若者たちを応援できる仕掛けづくり
- 地域への思いを持つ人たちがまちづくりに携われるような仕掛けづくり
- 地域の高校生や大学生など、若者人材との連携・活用



■駅舎・自由通路■

- 東西どちらからでも使い勝手の良い形
- 送迎のしやすい施設
- 過大にならずコンパクトな施設、身の丈にあった施設
- 駅周辺がよく見晴らせる施設
- 駅で時間を過ごせる場所、居場所づくり
- 電車・バスの待合スペースが不足
- カフェ、ファストフード、イートインスペース
- 学生などが2・3人で集まっておしゃべりできるスペース
- 高齢者が座って待てるベンチ

■東側エリア■

- わかりやすさ（ロータリーの利用形態や動線、誘導看板）
- 送迎のしやすさ
- イベントができるようなオープンスペース、公園・緑空間（よかつまつりなどを、駅東西で一体的に開催）
- 河原子海岸へのアクセス向上

■西側エリア■

- 生鮮食品、日用品、雑貨、化粧品が買える場所
- 朝・昼・晩それぞれに訪れる人たちが利用できる施設
- 日立駅の「ぶらっとひたち」のように、来街者がふらっと立ち寄れる場所
- モノを買う・消費するだけでなく「体験できる空間」への需要が高まっている
- 学習室・図書館の機能や保育園などの子育て支援機能
- お惣菜が買える店、企業などの情報発信ブース

■駐車場■

- 現在は30分無料で利用するため便利
- 日立市の暮らし方では、駅周辺に駐車場が必要
- 駅での送迎用に十分な量の駐車場、駐車帯が必要

■道路ネットワーク■

- 駅周辺エリアから駅へのアクセス経路の維持改善
- 未整備の都市計画道路の整備推進
- BRTと一般車の両方が通行できる道路

■駐輪場■

- 広場周辺では歩行者と自転車の動線が錯綜し危険
- 自転車利用の学生が安全に利用できる環境



(3) 常陸多賀駅周辺地区グランドデザイン検討ワークショップ

学生や子育て世代など、幅広い世代の意見を聴取するため、デザイン監修者（マウントフジアーキテクトスタジオ一級建築士事務所）のコーディネートにより、ワークショップを開催しました。

アンケートや意見交換でのニーズを基にしつつ、地図や模型などを用いて、参加者それぞれの意見や将来のまちのイメージを整理することで、自由通路や駅舎、広場など、個々の施設に求められる機能だけでなく、駅前空間全体や、西口・東口といった施設を横断した空間（エリアやゾーン）に求められる機能などについて、検討を深めることが出来ました。

■ワークショップの概要

第1回（令和4年9月3日）

「未来の常陸多賀をみつけよう」というテーマの下、将来の駅周辺に望まれる機能や駅周辺でやってみたいことなどについて、グループによる意見交換を行った後、各グループが将来の駅周辺イメージ（キーワード等）を発表し、参加者間で意見を共有しました。

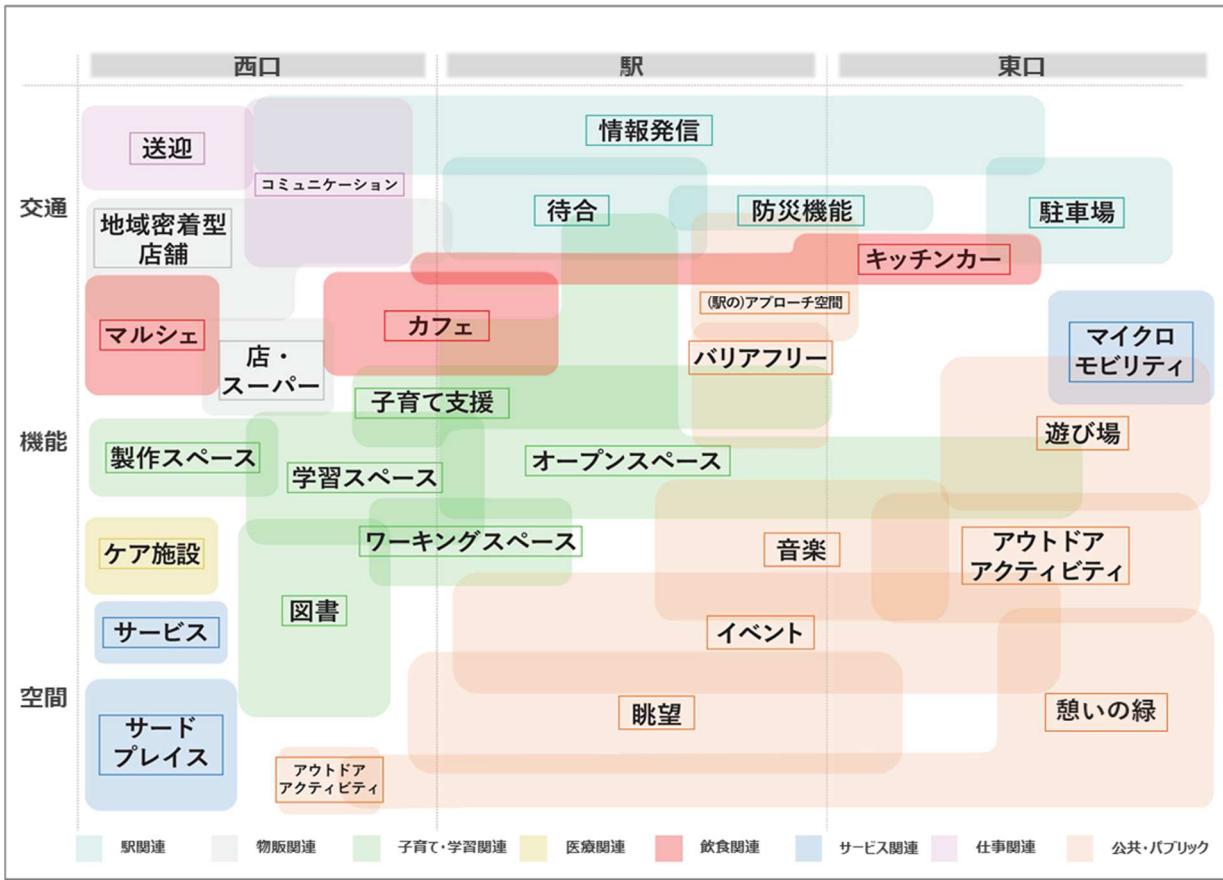


第2回（令和4年10月2日）

第1回の結果を踏まえ、駅前空間と地区全体との関係性を意識しながら、地区の望ましい将来の姿や駅周辺での行為・活動について、グループによる意見交換を行った後、各グループが望ましい将来の姿（キーワード等）を発表し、参加者間で意見を共有しました。



■ 駅前空間に望まれる機能のダイアグラム（ワークショップまとめ）



■ 駅前空間に望まれる機能等（ワークショップまとめ）

期待される機能等	駅前空間全体	○情報発信 (観光、産業、交通、まちの魅力)		○公園や広場、シンボルツリーなどの緑空間		○オープンスペース (憩い、居場所、フリースペース)		
	エリアを跨ぐもの	○カフェ ○子育て世代に配慮された空間、施設（一時保育・預かりなど） ○学習・ワーキングスペース（場の提供、使いやすい設備）			○防災機能 ○キッチンカーが滞留できるスペース ○駅にアプローチ（アクセス）しやすい空間 ○音楽空間（駅ピアノ、ストリート／ステージパフォーマンス） ○イベントスペース（よかつぱ祭り・大道芸での活用、芋煮会の開催など）			
	エリア	西口		駅		東口		
	エリアごと	○送迎機能 ○多世代（多国籍）コミュニケーションスペース ○地域密着型の店舗やスーパーなどの商業機能 ○マルシェのような楽しい買物空間 ○製作（クラフト）スペース ○図書機能（本を読んだりして時間を過ごす場所） ○病院等のケア施設 ○行政窓口や公衆トイレ等のサービス機能 ○サードプレイス（家でも会社でもない第三の居場所）		○快適な待合空間 ○バリアフリーに配慮された空間 ○眺望を楽しめる場所（山、まち、海）		○駐車場機能 ○自転車などマイクロモビリティが活用できる環境 ○ボール遊びが出来る公園などの遊び場機能 ○アウトドアアクティビティ（スポーツ、キャンプなど）		
	ゾーン	駅舎北	駅舎南	駅	広場	広場周辺		
機能のイメージ (キーワード)	買う 学ぶ 食べる 停める	交流する 飲む(呑む) 食べる	過ごす 待つ 売る 商う 眺望を見る、眺める、誇る 表現する(情報発信・パフォーマンス)	停める 買う 守る(防災・防犯)	遊ぶ 運動する			

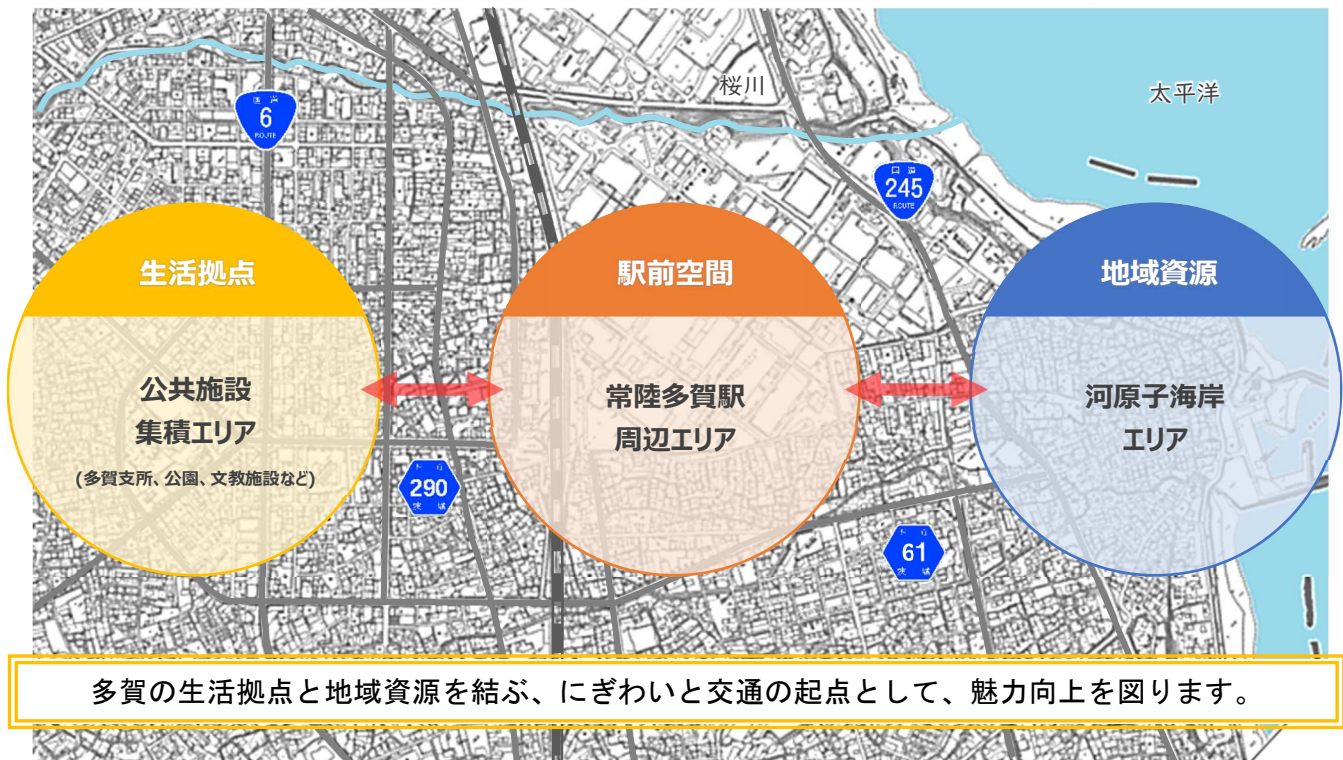
3 基本方針

(1) 駅前空間の位置付け

常陸多賀駅の周辺では、駅前と、末広町1丁目を中心とした公共施設の集積エリアを2つの拠点として、それぞれを結ぶ駅前的大通り（よかっぺ通り）を中心に道路が放射状に配され、市街地が形作られてきました。

また、市街地の東側には、本市屈指のレジャースポットである河原子海岸を有しており、駅と海岸は県道日立笠間線や、その前身にあたる旧河原子街道などで結ばれています。

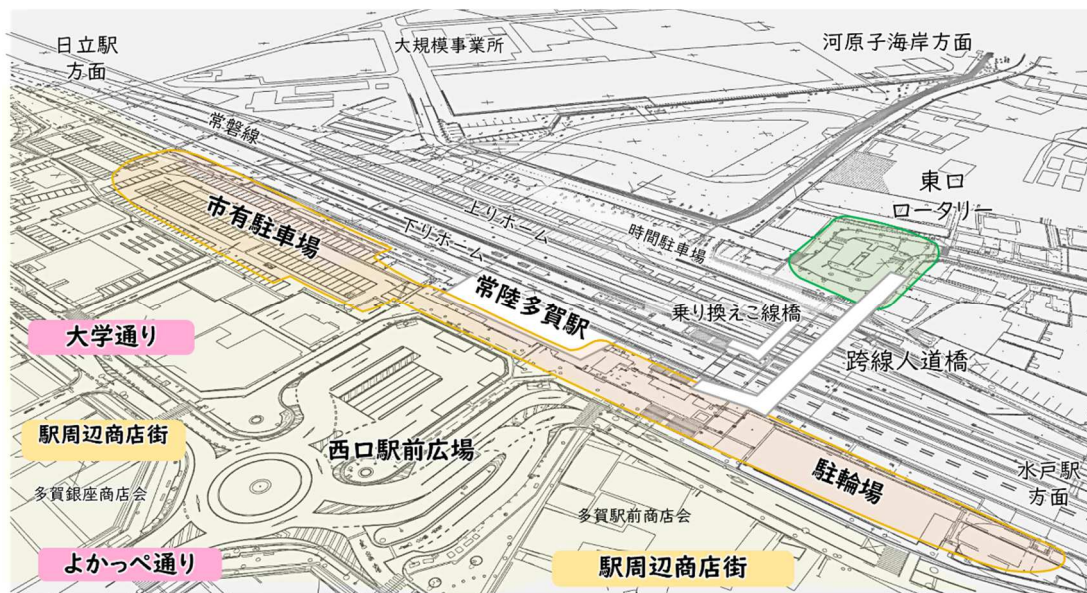
事業では東西の市街地を結ぶ自由通路や、駅東側での新しい広場、広場に至る道路の整備などを計画していることから、公共施設集積エリア（生活拠点）と河原子海岸（地域資源）の中間に位置する駅前空間を「にぎわいと交通の起点」と位置付け、施設整備とあわせた機能の導入、再編などにより魅力向上を図ります。



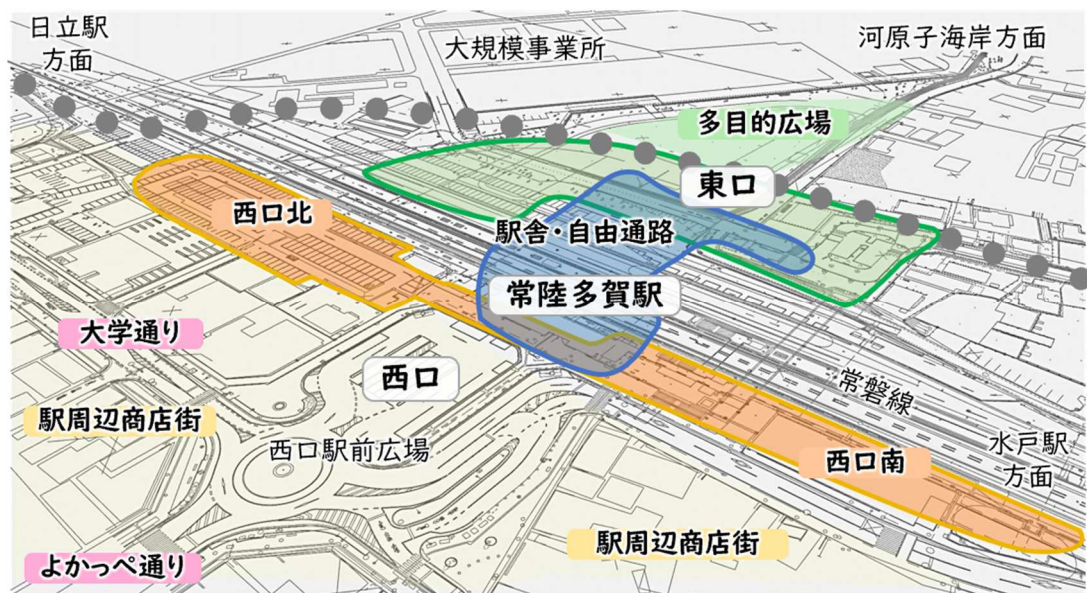
(2) 駅前空間の基本方針

駅前空間での機能導入に当たっては、敷地や施設単位で完結させるのではなく、「西口」、「駅」、「東口」といったエリアの中で、機能的にも空間的にもつながりのある一体的な駅前空間として、以下（次ページ）の方針に基づいて事業に取り組むとともに、将来像の実現に向けたまちづくりを推進します。

(常陸多賀駅 現状)



(将来の常陸多賀駅のゾーニング)

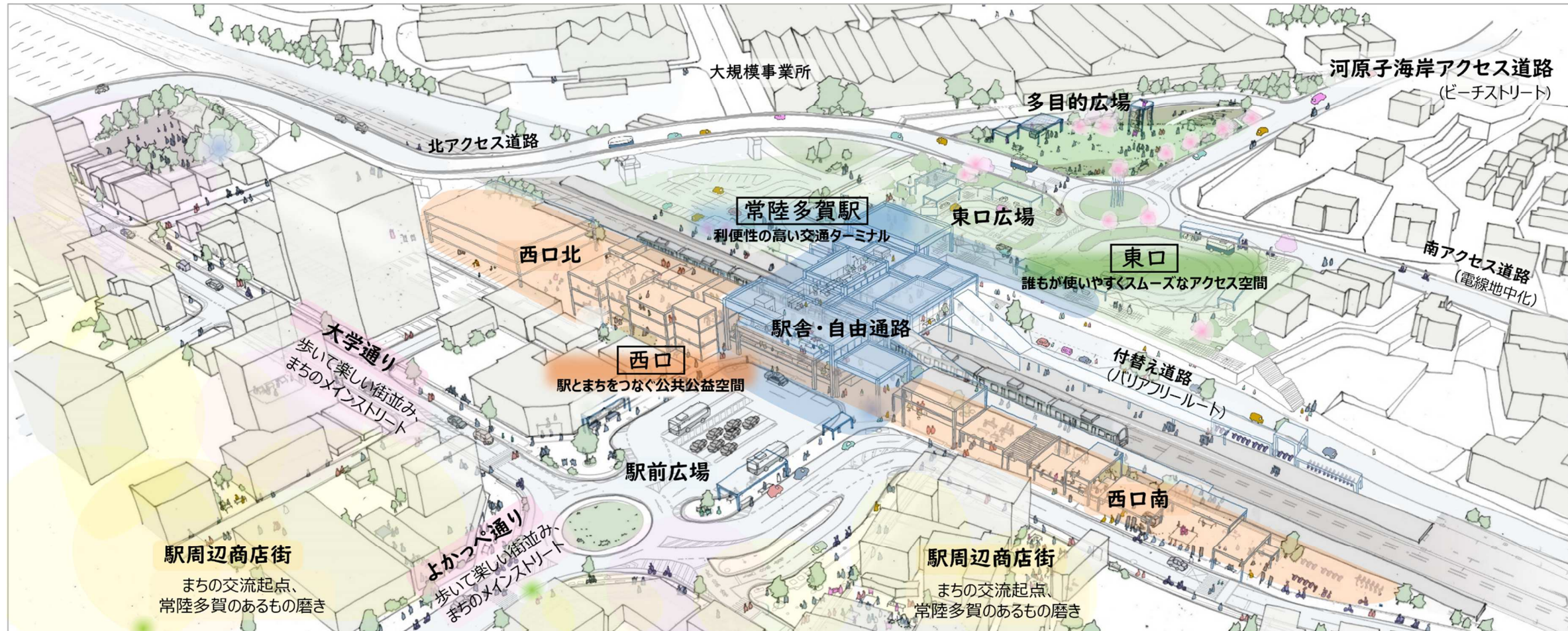


■ 駅前空間の将来像（ビジョン）及び機能導入方針等

エリア 将来像 (ビジョン)	ゾーン	将来像（ビジョン）	機能導入方針	事業における施設等の整備方針
【西口】 駅とまちをつなぐ 公共公益空間	西口北	住まう人・訪れる人が 集う賑わい空間	○暮らしを支え、楽しく買い物できる生活利便機能 ○日中や退勤・下校後など、多世代が思い思いに時間を過ごせる 図書・学習機能、若者・まちづくり支援機能	<ul style="list-style-type: none"> ■現在の駐車場(wepark 多賀駅前第一駐車場)や、跨線人道橋（自由通路整備後に撤去予定）昇降口部分、既存駐輪場部分を活用し、駐車場から駅、既存駐輪場に渡るエリアを一体的・連続的にぎわい空間として、望まれる機能の誘致、導入を官と民の連携によって促進し、魅力ある駅前空間の形成を図ります。 ■駐車場の土地利用転換とあわせて、駅周辺（線路東西）での公共駐車場の再配置を進め、利便性の維持・向上を図ります。 ■市街地北側に位置する高校や大学への自転車の利用現状などを勘案し、駐輪場についても、施設の再配置を進め、駅周辺における安全な歩行者・自転車の利用環境の確保と利便性向上を図ります。
	西口南	まち、商店街への 回遊を生み出す コミュニケーション横丁	○多賀ぶら（まち歩き）を誘う連続した交流・飲食機能 ○まち・駅のロビー（広間）となるオープンスペース（交流・滞留機能）	
【常陸多賀駅】 利便性の高い 交通ターミナル	駅舎 自由通路 駅前広場	常陸多賀の顔 として誇れる まちの玄関	○快適で過ごしやすく、楽しくおしゃべり、飲食できる待合機能 ○乗り継ぎや待ち合わせにも利用できるカフェやお店（滞留・交流機能） ○交通情報とまちの魅力を発信する情報発信機能	<ul style="list-style-type: none"> ■駅東側での新しい広場の整備に合わせて、東西自由通路と駅舎を一体的に改築整備して、現在の跨線人道橋の機能を振り替え、線路を挟んだ東西市街地間のスムーズな移動動線の確保や利便性の向上など、交通結節点及び交流拠点としての機能向上を図ります。 ■交通機能を線路の東西に分散配置し、交通結節機能の向上を図ります。 ■自由通路周辺を交通センターと位置付け、快適に待合や乗換ができる空間として、待合、滞留、交流、情報発信機能などの誘致、導入を図ります。 ■自由通路及び駅舎は、駅周辺の建物など、市街地との調和に配慮したデザインにするとともに、常陸多賀ならではの、市街地や山並みへの眺望を楽しめるスペースを確保します。
【東口】 誰もが使いやすい スムーズな アクセス空間	東口広場 と周辺	快適に通勤、通学ができる 安全なアクセス空間	○新たな広場や道路の整備、駐車場・駐輪場の再配置など、安全でスムーズな交通結節機能 ○避難場所としても活用できる広場空間、災害に強い道路整備など、防災機能	<ul style="list-style-type: none"> ■駅の東側に新しく広場を整備し、常陸多賀駅東口へのアクセス空間として、安全かつ円滑な交通環境の確保や利便性の向上など、交通結節機能の向上を図ります。 ■広場の整備とあわせて、南北の市街地からの道路を整備し、駅の西側に集中している交通負荷の分散を図り、駅周辺での交通や送迎時の混雑解消を図ります。 ■新しい道路の整備により線路東西の移動に多重性を持たせるとともに、非常災害時の避難場所としても活用できる広場の整備、電線の地中化など、防災機能の強化を図ります。 ■駅の東側は高低差の大きい地形であるため、エレベーターによるスムーズな上下移動を実現するとともに、既存道路の付替え整備による平坦な歩道確保など、移動時のバリアフリー化を図ります。 ■事業用地を効果的に活用して、駅周辺（線路東西）での公共駐車場や駐輪場の再配置を進め、利便性の維持・向上を図ります。
	多目的広場	多様なアクティビティと 憩いの緑空間	○多世代が集う公園機能 ○駅前に憩いをもたらす緑地機能 ○次世代につなぐ、桜の新しい風景 ○河原子海岸アクセス道路の整備による利便性の向上、地域が誇る自然資源の活用を促進	
大学通り よかつべ通り	歩いて楽しい街並み、まちのメインストリート			<ul style="list-style-type: none"> ■地域と行政の更なる連携強化を図るとともに、地域に根差すまちづくり人材の育成や活動の支援を促進し、常陸多賀のにぎわいある、持続可能なまちづくりを推進します。
駅周辺商店街	まちの交流起点、常陸多賀のあるもの磨き			

(3) 目指す将来像
(イメージ図)

常陸多賀駅周辺地区まちづくりランドデザイン ~ 目指すまちづくりの将来像(ビジョン) ~



	西口 駅とまちをつなぐ公共公益空間		常陸多賀駅 利便性の高い交通ターミナル		東口 誰もが使いやすいスムーズなアクセス空間	
	西口北(市有駐車場)	西口南(駐輪場・こ線橋)	駅舎・自由通路・駅前広場		東口広場と周辺	多目的広場
	住まう人・訪れる人が集う、賑わい空間	まち、商店街への回遊を生み出すコミュニケーション横丁	常陸多賀の顔として誇れるまちの玄関		快適に通勤、通学ができる安全なアクセス空間	多様なアクティビティと憩いの緑空間
エリア ビジョン						
機能 導入 方針	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく買い物、暮らしを支える生活利便機能 多世代が思い思いに過ごせる図書・学習機能、若者・まちづくり支援機能 駐輪場・駐車場の再配置による交通安全・利便性向上 	<ul style="list-style-type: none"> 多賀ぶら(まち歩き)を誘う交流・飲食機能 まちのロビー(広間)となるオープンスペース(交流・滞留機能) 駐輪場・駐車場の再配置による交通安全・利便性向上 	<ul style="list-style-type: none"> 東西の市街地を結ぶ自由通路と駅舎の整備 楽しく快適におしゃべり、飲食できる待合機能 待ち合わせにも利用できるカフェ・飲食店 		<ul style="list-style-type: none"> 新しい広場・道路を整備してアクセシビリティ・防災性向上 誰もが使いやすいバリアフリールートの整備 駐輪場・駐車場再配置による交通安全・利便性向上 	<ul style="list-style-type: none"> 駅前に憩いをもたらす、多世代が集う公園・緑地機能 次世代につなぐ、桜の新しい風景 アクセシビリティ向上で、地域が誇る「河原子海岸」の活用を促進

4 今後の進め方

自由通路や駅舎、広場などの整備においては、「デザイン監修者」を選定して、施設の設計業務に取り組んでおり、景観形成に配慮しながら、施設デザインの面からも、駅前空間の魅力向上に向けた取組を進めています。

また、市有駐車場などの土地利用を転換して、生活利便機能や図書・学習機能、交流・飲食機能を新たに誘致、導入する際には、既に設計等に着手している自由通路や駅舎、広場、道路などの整備が先行する形となるため、施工スペース確保などの観点から、先行施設の整備が完了した後に、建物等の整備に着手することを想定しています。

段階的な施設整備となる場合であっても、統一的なデザインコンセプトのもとで、駅前空間全体での景観形成に配慮するとともに、実施に当たっては、官民連携による効率的、効果的な整備運営手法の検討を進めます。

これらのハード面の取組に加えて、ソフト面では、今後も継続して「地域に根差したまちづくり人材」の発掘、育成支援に取り組むほか、まちづくりに携わる人々相互の活動基盤となる体制、連絡調整の場の構築などについても検討を進めながら、ランドデザインに示す、施設整備とあわせた地域の魅力向上・活性化の実現を目指します。



■参考

【事業において短期的・重点的に実施する施設整備の概要図】



【施設の整備スケジュール（予定）】

項目／年度	～R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度～
自由通路 駅舎等	JR協議・調整等						
		基本協定	基本設計・実施設計		鉄道施設支障物移転		
		都市計画決定					工事
道路 広場等	測量調査						
	詳細設計						
		都市計画決定	事業認可	用地取得・物件移転			
						工事	